

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970800336		
法人名	社会福祉法人 明徳会		
事業所名	テンドーヒル御所わかば館 グループホームきょうとっど		
所在地	奈良県御所市364-1		
自己評価作成日	平成23年3月8日	評価結果市町村受理日	平成23年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの本来の目的である認知症の抑制のため、身体機能面では可能であるが、認知面で行えなくなった生活行為を、介護者の援助を受けることによって1つでもたくさん行えることを最大限支援しています。それは単に人的ケアだけではなく、環境面、利用者同士の相互援助にも間接的にサポートしていき、利用者自身が「まだまだ自分は出来るんだ」と実感していただけるように支援しています。ご家族様にも、すべて施設にお任せというわけではなく、ご本人様を中心とした支援者として負担にならない程度に応援をして頂き、総合的に自立した生活の維持に努めている。また、可能な限り住み慣れたグループホームで生活を継続していただくため、予め退居要件を設定することなく、個々の利用者に合わせて、ご家族と共に相談し対応を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に立地されているため、利用者は近所となじみの関係が保たれやすく、散歩や買い物でも顔見知りの人と交流がとれるなど、利点を活かされています。利用者への接し方は基本的なマニュアル通りではなく、何が問題が起こればそのつどスタッフ同士の話し合いが行われ、その人・その時期に応じて臨機応変に対応されています。利用者にとって一番良いことは何か、ということに常に意識されている姿勢が、スタッフ個々の発言の中に表れていました。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームきょううのスタッフ会議において、行いたいケアを持ち寄り、方向性を確認した上で作成している。また、職員間の連絡掲示板に掲示し、常に目に触れるように配慮し、会議などでも啓発している	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の行事に参加していこうとスタッフ間から発言があり実践もしており、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤や退勤の際等、よく世間話などで馴染みの関係となってきている。また、ご利用者の散歩を頻回に行いながらも、利用者と共に地域の方との会話を心がけている。隣等からは、作った植木等を頂いたりしている	散歩や買い物の途中で知り合いに会ったり、ご近所の方達の面会もよくあり、利用者の以前の関係が保たれている。地域の行事への参加や小学校との定期的な交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に週に1度足を運んでいただき、運動や認知症にならないための予防教室を開催している。また、市の教室等に認知症についての講義を行い、認知症への理解と予防の啓発に取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、入居者やご家族に参加いただきながら、忌憚のない意見を頂き、また、地域の方々からも一般的な意見を参考にしながら、次回の会議までに改善を行うサイクルでサービス向上に活かしている。	定期的に会議が開かれており、食事や面会など、そのつど課題となっている問題をメンバーで共有し、活発に意見交換されている。出された意見をもとに、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、他の居宅支援、通所介護、訪問介護の管理者を行いながらも、介護支援専門員を兼務していることで、頻回に市に足を運ぶ機会を有しており、随時情報交換を行っている。	運営推進会議の出席の機会その他、事業所より頻回に市担当者窓口に出向き、情報交換・相談等を行っている。又、電話で相互連絡の機会も多く市との連携が密に取られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	通所介護、訪問介護等の総合施設として夜間は、総合玄関は施錠をしているものの、日中は解放しており、外出や面会を自由として身体拘束を行わない取り組みを行っている。	各ユニットとの共有スペースに階段がある為、危険防止の目的で鍵をかけている。そのため、特に身体拘束に留意し、利用者の安全を確保しながら、抑圧感のない自由な暮らしを支援しています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度のユニット会議では虐待防止等について話し合う機会を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、認知症実践リーダー研修や認知症実践者研修を毎年1名受講することで権利擁護に関する制度の理解を行い、レポートにて事業所全体に周知できる体制を取っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームでは、ソーシャルワーカーを配置し、文章や口頭にて十分な説明を行い、不安や疑問に関しても、いつでもご相談いただける体制を取っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、利用者やご家族から意見を頂く時間を設けており、その際に管理者、職員、地域の方々が不満や苦情を聞けるような機会を設けている	運営推進会議や面会時に意見を聞くようにし、出された意見、要望などはミーティングで話し合い、反映させ、ご家族の意思を尊重した対応を心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が運営に関する会議を行う事業主任会議を設けており、また、運営者とは、法人全体のリーダー会議を設けている。	ミーティングは月に1回開かれ、意見しやすいようにあらかじめそれぞれの意見を出しておくシステムをとっており、新人でも気兼ねなく意見しやすい雰囲気活発な意見交換をし、ケアに反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度に全職員に自己評価を行い、職員の1年のがんばりを把握し、それを賞与等で反映を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度、新入職員には、新入研修を1週間程度設け、またグループホーム着任後も認知症の勉強会等学ぶ機会を設け、施設外研修では定期的にいるんな職員に研修を受ける機会を出来る限り設けることで、外からの刺激を受ける機会も設けています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年4月開所以降、1年に2度開かれる認知症介護実践研修に毎回派遣し、学習だけではなく、他のグループホームとの情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面接時、家族様に生活歴のシートをお渡しして本人様について知っていることを書いていただくように協力していただいている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面接時、家族様とじっくりとお話することで様々な面で、家族様の困り事や意向を伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面接時、入居後ご利用者がどのようにすれば落ち着いて過ごしていただけるかを、家族様と共に考え、一緒に安定に向けた計画を検討していけるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人で出来る事は出来る範囲内で行っていただく様声かけを行い、一緒に行っている。調理や生き方に関してもご利用者から教えていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の面接時に出来るだけ家族との関係、生活について話しを伺い、入居後の生活の参考にしている。生活歴シートにも記入を頂き参考にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々にご入居いただくことで、美容室、病院、習いもの、買い物の場所を継続することが出来、最大限に活用をしている。	利用者は地域の方々であり、以前から利用している美容室・病院・習い物・買い物など、今までの生活の延長が出来るよう継続支援し、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居時は可能な限り、入居までの関わりや性格等を伺うことで関わりを援助を行うが、時間が経てばご本人の残存能力により関係を形成いただくように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族にはグループホームで過ごしていただいた際のアルバム等でどのように過ごしていただいていたのかを振り返ることが出来るような機会を設けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お風呂、食事、買い物、散歩等の様々な生活の場面に関して一人一人の意向を伺い実現が出来るように配慮を行っている。また、ご本人の思いをアンケート方式で伺い、定期的に思いを確認している。	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。又、ご本人の思いをアンケート方式で定期的に確認している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様より生活歴シートを書いていただくことや、スタッフとの会話の中で得られたこれまでの生活に関わる内容は、日誌に記載し記録を行えるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子を日誌に記録し、カードックスにより身体の状態の変化を把握し、申し送りでは1日の様子を切れずに引き継がれていくように把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度利用者に関するカンファレンスを行いながら、個々の今後の介護について検討している。その結果を受けて、必要な際にご家族様と話し合いを行いながらとも今後の方向性について検討している。	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を記録し、日誌、ご利用者ファイルに活用している。また、月に1度全利用者に関しての処遇会議を行い見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険内のサービスにとどまらず、希望があれば進撃に検討し、柔軟に対応できるように配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御所市で行われた「ふれあいコンサート」に参加し、地域にある「大衆演劇」の観劇を行い、地域の資源を活用し、ご利用者の楽しみを見つけ出せるよう幅広く取り組めるよう意識している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前の馴染みのかかりつけ医からの変更をせず、意向に添った形でのかかりつけ医の選定を行っている。	ホームの協力医のほか、利用前からのかかりつけ医で医療を受けられるようにしている。受診の際はスタッフが付き添い、日常の細かい観察も記録を通じて報告できるシステムになっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームで看護師を配置し、日常の健康管理を行っていただいている。法人の看護職員にも常時協力体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人で協力病院として入院先を確保し、医療相談員との協働で情報交換、相談に努め、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常よりかかりつけ医やご家族と情報交換を密に行っている。重度化される前にあらかじめ「出来ないこと」を想定することなく、かかりつけ医、ご家族と相談をしながら可能な限り出来ることを検討していき、ご利用者を支援してきた。	その人の状況に応じた対応をとっています。ご家族、主治医と状況変化に応じた繰り返しの話し合いで一番良い方法を検討しています。その上でケア職員がミーティングを行いご家族・主治医と連携を取りながら支援しています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入し、使用法等を学びながらも、緊急の対応について学習している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の消防訓練を行い、利用者と共に避難の方法を訓練している。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人一人の尊厳を尊重し、1つ1つの介護に声かけを行っている。また、個人情報規定に則り対応を行っている。	人格の尊重を普段から意識し、年長者として敬意を払いながら、声かけをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	調理、掃除、洗濯等を一緒に行いながらの自然な会話、その人にあったコミュニケーション、意向の聞く努力を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に応じて食事の時間を伺い対応している。また、その日の体調や気分に応じて安息タイムを設けたり、散歩に出かけたりと個人のご希望に添えるよう支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染み美容院や理髪店を予約してご利用を頂いている。訪問理容も適宜利用。衣類や継承品等も個人にあった物を購入していただける様に支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立参加や、出来る方には積極的に調理をお願いし、味付けも入居者の口に合う様に入居者の方々を中心に行っていただいている。片付けも基本はご自身で行っていただいている。	利用者の希望を取り入れた献立と、業者の献立を併用し、マンネリ化を防いでいる。一人ひとりの能力に応じて利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けも行っている。又、一人ひとりに応じて食べやすくする工夫がなされ、自分で食事が出来るように支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配置し、定時の水分補給は行っている。食事は本人の意向に添いながらも把握し、必要な支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時に個別に必要性に応じ行っている。また、毎晩入れ歯外し洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合わせたトイレへの声掛けや、オムツの選定を心がけている。また、おむつに頼ることなくトイレ等を活用して自立を促している。	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類を本人に合わせて利用している。尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することよりトイレで排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェック・水分補給・適宜下剤使用を行いながら快適な状況を維持できるように支援を行っている。バナナやヤクルト等の飲食物の工夫を行い、排便を促す努力を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望された時間・頻度で対応を行っている。また、入浴嫌いな方には環境を変えるなど違った浴室での入浴も試みている。	入浴したい日、時間に合わせて入浴するなど、一人ひとりのそのときの希望を大切にしたい支援が行われています。又、くつろいだ気分で入浴ができるよう、一人ひとりに十分な時間をとっています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や不眠・浅眠が見られる入居者には日中の出来事の過ごし方や行ったことなどを把握し、散歩や読書、買物、家事など日中活動を行っていただいで改善に向けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医師と連携し必要に応じて薬の説明や作用、注意など随時指示を受け、服薬板に職員が分かるように作用と注意事項を記載し、周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員で決まって何かをするということを行わないようにし、お茶やカラオケ、書道などの他、調理などの家事などで各入居者の好みや得意とすることに力を入れ援助している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩や買い物等は、随時対応を行っている。また、気候の良い季節には御本人の希望を伺いながら外食や観劇・遠出遠足などの場を設けて取り組んでいる。	天候のいい日は毎日散歩をしている。又、利用者の思いに添って、一人ひとりの外出支援も行っている。定期的に外食や観劇、遠足等外出に出ることを積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1度の買い物の際には行っている。ご本人の能力に合わせたお小遣いは管理していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話取り次ぎ可能の制限もなく、入居者ご自身も自由に電話をご利用いただける環境にある。手紙交換をされておられる方もおられ、積極的に支援を行っている。又正月には年賀状の作成支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木や草花。ベランダにもプランターで花を育て、洗面や食卓には常時花を生けている。家具等は一般家庭用を使用し、生活感を出せるように配慮している。	外気も適度に取り入れ、季節感のある明るく清潔な空間を保っている。一人ひとりゆっくりくつろげるソファや椅子があり居心地よく過ごさせている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて食卓や、ソファでくつろいでいただけるような環境を作っている。それ以外にも廊下にソファを置き、またリビングの先には和室を設け、様々な場面で居場所を作っていただけるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド等を含め、全ての物を自宅から持ち込み、出来る限り新調もしていただかないように声をかけている。また、具体的に持ち物としては、刃物以外は持ち込みを拒んでいない。	自宅からの馴染みの家具等が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のそさに配慮しており、その人らしく落ち着いて過ごせるための工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室(畳部屋)の出入口に隠し階段を設けている。その他、車椅子用トイレを設置。ご自身の部屋には自作の表札を作り、壁紙は部屋毎に変えている。		